本願寺新報
hongwanji journal

10月1日（火曜日）

毎月1日・10日・20日発行

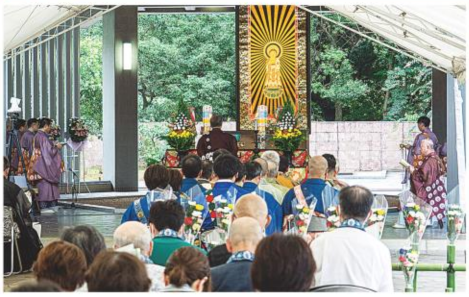
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代)／FAX075(341)7753

創業1400有余年の寺社建築技術
金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル ☎ 0120-054-731

トップニュース

恒久平和への願い新たに

ご門主ご臨席　第44回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要を営む



国籍、思想、信条を超えてすべての戦争犠牲者を追悼し、悲惨な戦争を繰り返してはならないという平和への決意を新たにするため、第44回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が9月18日、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で、ご門主ご臨席のもと営まれた（写真）。新型コロナの影響などで昨年までは法要の規模を縮小していたが、今年は従来通りとし、猛暑日の中、僧侶や門信徒、国会議員など約1200人が全国から参拝した。法要はユーチューブで生配信された。

法要に先立って、宗門関係学校生徒作文の最優秀に選ばれた竹村紗南さん（京都・龍谷大学付属平安中3年）と角谷美玖さん（大阪・相愛高1年）の2人が作文を朗読（下に全文）、荻野昭裕総長から表彰状と記念品が贈られた。この後、仏教讃歌を斉唱し、園児、生徒、参拝者代表による献華が行われ、浄土真宗本願寺派総合研究所の寺本知正副所長が法話を行った。

午後1時30分からは、宗門として恒久平和の願いを新たにする「平和の鐘」を竹村さんと角谷さんが撞いた。鐘の音に合わせて僧侶が庭儀し、築地本願寺の中尾史峰宗務長の導師で正信念仏偈（音楽依用）をつとめた。法要中にはご門主が焼香され、宗門要職者や来賓が続いた。

法要に参拝した東京都国立市の應善寺門徒・山崎明子さん(66)は「同じ教えをいただく仲間とお参りさせていただいた。母は戦時中の疎開先で、夜にあった空襲を山越しに見て、空が夕焼けのように真っ赤になったと言っていた。父は東京大空襲で逃げ回り、その逃げ場所が違うだけで被害にあった人がたくさんいたという話も聞いた。次の世代に語り伝えていくのが難しい時代になっているが、きちんと伝えていかなければ」としみじみと話した。

島根県松江市から参拝した男性(80)は「私が生まれる前に出征した父が、終戦の年の3月にフィリピンで戦死したので、ほぼ毎年お参りしている。父は亡くなってはいるが私を育ててくれたように思う。『人生をしっかりと生きにゃいけん。お前しっかりせいよ』と言われているような感じがする。戦争の歴史が風化している気がするが、それではいけない。今も世界でたくさんの戦争が起きている。私たちと同じような状況の子どもがたくさんいると思うとたまらない」と思いを語った。

埼玉県草加市の松村英明さん(60)は「毎年お参りをさせていただいている。仏教徒である我々がしっかりと声を上げて平和を訴えていかなくてはいけない」。聖歌隊で仏教讃歌を歌った宗門校・武蔵野大(東京)2年の井上智佳子さんは「この法要で歌うのは初めて。今も世界で戦争が起きており、マスコミで報道されていない地域でも紛争がある。一刻も早く終わってほしいと思いを込めて歌った」と話した。（2面に関連）

西本願寺（京都市）
国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑

法要はユーチューブで生配信された。「平和の鐘」の際には、本山、名古屋別院、鹿児島別院、普願寺（長野教区）、法親寺（兵庫教区）の5カ所で撞かれている様子も同時中継された

宗門関係学校生徒作文 最優秀作文

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に際し、「いのちの尊さ」「非戦・平和の大切さ」をテーマにした作文を、浄土真宗本願寺派の関係学校から募集。中・高校生それぞれの部門で最優秀作文に選ばれた2人が、法要に先立ち作文を朗読した。その全文を掲載する。

言葉の意味を変えてしまった戦争

【高校の部】

角谷　美玖

相愛高校1年

「戦わなければ殺されたんだ」。戦争の話をしたがらなかった曽祖父が、母にたった一度だけ苦しそうに言った言葉。開けてはいけない記憶の扉を開けてしまった罪悪感を母は今でも思い出すと言った。戦争が終わり、何十年も経っているのに、乗り越えることができないほどの苦しみを、曽祖父は独りずっと抱えて生きてきたのだと思うと心が痛くなった。

曽祖父は、うなぎや太刀魚が大嫌いだった。戦時中に使った武器を連想させ、その当時の記憶が蘇るからだそうだ。その話を聞いて、ふと先日テレビでウクライナの今を取材した報道番組を思い出した。テーマは「言葉」だ。長引くロシアとの戦争が、ウクライナの人々の言葉の意味あいを変えていっているという内容だった。

例えば、ある人にとっては「お風呂」が以前はリラックスできる場所だったのに、今は爆撃から身を守るための場所となり、ある人は、かつて恋人と聞いていた庭先に落ちる「りんご」の音が、ミサイルの音を連想させるようになったそうだ。大切な思い出や自分の中のイメージが、戦争と結びつき、その言葉の意味を、記憶を変化させてしまっていたのだ。番組を通して、どこか他人事のように思ってしまっていた遠い国で起こっている戦争の体験が、曽祖父の辛い経験と重なった。現実に今もなお行われている人と人の殺し合いが、これからも心に消えることない傷を残して繰り返されていくのだと思うと心が痛くなった。

曽祖父のように心の傷に生涯悩まされる人を一人でも減らすために、戦争を知らない私たち世代に何ができるのか。「人同士が争い、多くの人が傷つき嘆く中で、一人幸福を見出すことは難しい。しかし、争いを鎮めようと人が話し合うなか、一人傷つき不幸なままでいることの方がより難しい」。これは母があるご住職から聞いた言葉だが、この言葉の中に答えがあるのかもしれない。人と争うのではなく、お互いを尊重し合いながら生きていくこと。私にできることはこれぐらいのことしかないけれど、少しの思いやりが周りを幸せにしていく。一人ひとりの小さな一歩が、人から人へのやさしさがやがて大きな輪になって伝わり、平和へとつながっていくと私は信じている。

一つだけの命

【中学の部】

竹村　紗南

龍谷大学付属
平安中学3年

家の棚を整理していると、偶然小学四年生の時の国語の教科書が出てきた。「懐かしい」なんて思ってページをパラパラめくると、「一つの花」という戦争をテーマにした物語を見つけた。この物語は「一つだけちょうだい」が口ぐせのゆみ子という女の子の話だ。食べ物が少ない戦時中の日本で、配給されたわずかな食料で食いつないでいたゆみ子の両親。いつもお腹を空かせていたゆみ子は「一つだけちょうだい」と食べ物を欲しがる。そんなゆみ子に両親は「一つだけよ」と言い、自分たちの分からゆみ子に分けてあげていた。この物語はまさに「いのちの尊さ」を教えてくれる素晴らしいものだった。

戦争に行くゆみ子のお父さんは、見送りに来たゆみ子に一輪のコスモスを渡す。そして、「一つだけのお花、大事にするんだよ」と言った。どうしてお父さんは、いつも「もっと、もっと」と欲しがるゆみ子に、最初からたくさんの花を渡さなかったのだろうか。それは、お父さんが、ゆみ子に「一つだけ」の大切さを教えたかったからだと思う。「一つだけ」というのは他に代わりがきかない。だから人は一つだけの物を特別だと考え、大切にする。一つだけの花、つまり一つだけの命を大切にしてほしい。そんな思いがこの物語には込められている。

戦争は「一つだけ」を殺す。一つだけの家、一つだけの家族、一つだけの学校。人のかけがえのない「一つだけ」を大切にしない。他に代わりがある、ただの消耗品だと思っている。私たちは、ゆみ子と同じように何でも山ほど欲しがる。どんなにたくさん与えられても満足しない。それは、国が貧しいからではない。心が貧しいからだ。本当の平和な時代を築いていくには、かけがえのない「一つだけ」の命を大切にすることが重要だと考えた。世界の人々の「一つだけ」がいつまでも続くような世の中になることを願っている。

新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

赤光白光

いつも利用する港の構内に、大きな額を見かけるようになった。ある日近づいてみると、「空も港も夜ははれて　月に数ます船のかげ…」と書かれている。読んでいくうちに、いつのまにかメロディーが口から出た。懐かしい思い出が体いっぱいに広がるようだった。文部省唱歌「港」だった。

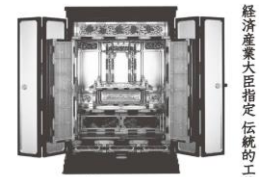
▼ことばの意味を知らないまま、いや、知ろうとも思わずに、ただただ大きな声で歌っていた幼少期を思い出す。「そういう意味だったのか」とわかったのは、かなり後になってからのことである。意味を知ったときは、大げさに言えば、雲に覆われていた空が一気に晴れ渡るような心持ちだった。もっと歌詞の意味を知りたい、という思いすら起こってくる。「音」で覚えた歌であったが、歌のこころを知ることで歌と私が一つになっていく段階へと移り変わっていく。

▼いつも経典を読誦する。子どもの頃は大人の声に合わせて、経本のふりがなだけを追いかけながら声を発し、覚えていった。意味を考える余裕は全くない。しかし、どこかの段階で経典の内容を聞いて学ぶことになる。今までただ声を発し、「音」で覚えていた経典には、「わが名を称えよ。必ずあなたを救う」という仏のよび声、はたらきが書かれていると知り、経典への思いが全く変わった。

▼先人がお念仏を称えるこころを詠んだ歌が胸いっぱいに広がってくる。「み仏をよぶわが声はみ仏のわれをよびますみ声なりけり」。

二胡＆雅楽で慈しみの心を奏でる！
NEW RELEASE
CDのお求めはこちらから

親鸞聖人御誕生八五〇年
立教開宗八〇〇年
慶讃法要
「いのちの季節」
1.生きる
2.パドマの華
3.娘たちよ
4.聖夜
5.のんのさま
6.本願力のめぐみゆえ
7.いのちの季節
8.念仏
9.しんらんさま・（二胡&雅楽）
10.恩徳讃（新譜）・（二胡&雅楽）
11.シルクロード～雅音～（二胡&雅楽）
記念価格
2,000円(税込)
定価2,500円(税込)
※記念価格での販売は、下記お問合わせ先からのご注文に限ります。
二胡奏者・医学博士　姜　暁艶（ジャン　ショウイエン）
（お問合わせ）二胡音楽院　TEL.082-222-8449　FAX.082-555-0533
〒730-0016 広島市中区幟町10-16 2F
E-mail:nikoongakuin@niko-jiang.com　http://www.niko-jiang.com/



経済産業大臣指定 伝統的工芸品
彦根仏壇
創業文政三年 仏壇・仏具
永楽屋 EIRAKUYA
永楽屋HP　彦根仏壇HP
本店・本社 滋賀県彦根市芹中町40
☎ 0120-23-1466
永楽屋 仏壇工場
草津店／長浜店

本願寺御用達
扇子
中有 扇 啓職 子
扇子調進所
遠藤新兵衛商店
〒600-8334
京都市下京区油小路通六条南入
電話(075)351-1367
FAX(075)351-1476
http://www.endo-shinbey.com

好評
親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃
親鸞聖人の一生
今井雅晴（筑波大学名誉教授）
発行 築地本願寺／発売 自照社
800年の昔、人々とともにお念仏のみ教えに生き、今も私たちを導きつづける浄土真宗の宗祖・親鸞聖人。その出会いと別れ、苦悩、葛藤、そしてよろこびに彩られた90年のご生涯をしのぶ。
B6判・並製・244頁 2200円

重版
2024年、立教開宗800年を迎えて―
立教開宗と浄土真宗
四夷法顕（相愛大学講師）
浄土真宗における「教行信証」撰述の意味と、「浄土真宗」という宗名に込められた思いをうかがう。
B6判・中綴・32頁 220円
お施本にも最適
＊50部以上1割引／100部以上2割引
＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【赤井智顕 師 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7 電話：077-507-8209 FAX：077-507-9926